



発行番号：第18A2124号
発行日：平成31年 2月12日

品質性能試験報告書

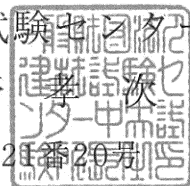
依頼者 サンスター技研株式会社

大阪府高槻市朝日町3番1号

試験名称 建築用シーリング材「ペンギンシールSA7500」の性能試験

標記試験結果は本報告のとおりであることを証明します。

一般財団法人 建材試験センター
中央試験所長 真野 次
埼玉県草加市稲荷5丁目2番20号



[試験名称]

建築用シーリング材「ペンギンシールSA7500」の性能試験

[目次]

1. 試験の内容	-----	2
2. 試験体	-----	2
3. 試験方法	-----	3
4. 試験結果	-----	3
5. 試験の期間, 担当者及び場所	-----	7

1. 試験の内容

サンスター技研株式会社からの依頼により、建築用シーリング材「ペンギンシール SA7500」について、以下に示す項目の試験を行った。

- | | |
|---------------------|----------------------------------|
| (1) スランプ | (2) 弾性復元性 |
| (3) 引張特性 | (4) 定伸長下での接着性 |
| (5) 圧縮加熱及び引張冷却後の接着性 | (6) 高温状態及び湿潤状態でのガラス越しの人工光暴露後の接着性 |
| (7) 水浸せき後の定伸長下での接着性 | (8) 体積損失 |
| (9) 耐久性 | |

2. 試験体

試験体は、表1に示す試料を用いて、依頼者が作製及び養生したものが搬入された。試験の際の目地幅の条件及び被着体の種類を表2に示す。

表1 試料の詳細（依頼者提出資料）

シーリング材	商 品 名		ペンギンシール SA7500	
	種 類	タイプ	G, F	
		クラス	25	
		モジュラス	LM	
	材 質		シリル化アクリレート系	
	製品形態による区分		2成分形（記号：2）	
	耐久性による区分		10030	
	質 量 配 合 比		基剤:硬化剤:トナー=100:8.5:4.3	
	呼 び 方		G-25LM-10030, F-25LM-10030	
	ロット番号	ペンギンシールSA7500 基剤	9108B	
		ペンギンシールSA7500 硬化剤	9518H	
		ペンギンシール標準色 共用トナー ニューグレー	8308P	
	数 量		4Lセット	
色		ニューグレー		
プライマー	商 品 名		プライマーSA-1	プライマーUM-2
	数 量		250g	500mL
	ロ ッ ト 番 号		5108K	8208K
	塗 布 方 法		刷毛塗り	刷毛塗り
	オープンタイム		2時間	2時間
	被 着 体		アルミニウム板及び ガラス板	モルタル板

表2 目地幅の条件及び被着体の種類

試験項目	目地幅の条件	被着体の種類
弾性復元性	伸び率：100% 伸長時の目地幅：24.0mm	アルミニウム板
引張特性	応力測定時の伸び率：100%	アルミニウム板 モルタル板 ガラス板
定伸長下での接着性	伸び率：100% 伸長時の目地幅：24.0mm	アルミニウム板 モルタル板 ガラス板
圧縮加熱及び引張冷却後の接着性	拡大・縮小率：25% 拡大時の目地幅：15.0mm 縮小時の目地幅：9.0mm	アルミニウム板 モルタル板 ガラス板
高温状態及び湿潤状態でのガラス越しの人工光暴露後の接着性	伸び率：100% 伸長時の目地幅：24.0mm	ガラス板
水浸せき後の定伸長下での接着性	伸び率：100% 伸長時の目地幅：24.0mm	アルミニウム板 モルタル板 ガラス板
耐久性	変形率：30% 圧縮加熱温度：100℃	アルミニウム板

3. 試験方法

JIS A 5758：2016（建築用シーリング材）に準じて行った。

4. 試験結果

- (1) 試験結果一覧を表3に示す。
- (2) スランプ試験結果を表4に示す。
- (3) 弾性復元性試験結果を表5に示す。
- (4) 引張特性試験結果を表6に示す。
- (5) 定伸長下での接着性試験結果を表7に示す。
- (6) 圧縮加熱及び引張冷却後の接着性試験結果を表8に示す。
- (7) 高温状態及び湿潤状態でのガラス越しの人工光暴露後の接着性試験結果を表9に示す。
- (8) 水浸せき後の定伸長下での接着性試験結果を表10に示す。
- (9) 体積損失試験結果を表11に示す。
- (10) 耐久性試験結果を表12に示す。

表3 試験結果一覧

試験項目			試験結果	JIS A 5758(2016)に 規定される性能 (G,F-25LM-10030)	
スランプ (mm)	縦	50℃	0	3以下	
		5℃	0		
	横	50℃	0	3以下	
		5℃	0		
弾性復元性 (%)		アルミニウム板	95	60以上	
引張特性	引張応力 (N/mm ²)	23℃	アルミニウム板	0.3	0.4以下
			モルタル板	0.3	
			ガラス板	0.3	
		-20℃	アルミニウム板	0.5	0.6以下
			モルタル板	0.6	
			ガラス板	0.6	
定伸長下での 接着性		23℃	アルミニウム板	3個とも破壊なし。	破壊してはならない。
			モルタル板	3個とも破壊なし。	
			ガラス板	3個とも破壊なし。	
		-20℃	アルミニウム板	3個とも破壊なし。	
			モルタル板	3個とも破壊なし。	
			ガラス板	3個とも破壊なし。	
圧縮加熱及び 引張冷却後の 接着性		アルミニウム板	3個とも破壊なし。	破壊してはならない。	
		モルタル板	3個とも破壊なし。		
		ガラス板	3個とも破壊なし。		
高温状態及び湿潤状態での ガラス越しの人工光暴露後の 接着性		ガラス板	3個とも破壊なし。	破壊してはならない。	
水浸せき後の 定伸長下での 接着性		アルミニウム板	3個とも破壊なし。	破壊してはならない。	
		モルタル板	3個とも破壊なし。		
		ガラス板	3個とも破壊なし。		
体積損失 (%)			5	10以下	
耐久性 (区分:10030)		アルミニウム板	3個とも異常なし。	明確な異常があつては ならない。	

表4 スランプ試験結果

方向	温度	スランプ (mm)			
		1	2	3	平均
縦	50℃	0.0	0.0	0.0	0
	5℃	0.0	0.0	0.0	0
横	50℃	0.0	0.0	0.0	0
	5℃	0.0	0.0	0.0	0

表5 弾性復元性試験結果

被着体	弾性復元率 (%)			
	1	2	3	平均
アルミニウム板	96	94	95	95

表6 引張特性試験結果

温度	被着体	引張応力 (N/mm ²)			
		1	2	3	平均
23℃	アルミニウム板	0.3	0.3	0.3	0.3
	モルタル板	0.3	0.3	0.3	0.3
	ガラス板	0.3	0.3	0.3	0.3
-20℃	アルミニウム板	0.5	0.5	0.6	0.5
	モルタル板	0.6	0.6	0.7	0.6
	ガラス板	0.6	0.6	0.6	0.6

表7 定伸長下での接着性試験結果

温度	被着体	外観観察結果
23℃	アルミニウム板	3個とも破壊なし。
	モルタル板	3個とも破壊なし。
	ガラス板	3個とも破壊なし。
-20℃	アルミニウム板	3個とも破壊なし。
	モルタル板	3個とも破壊なし。
	ガラス板	3個とも破壊なし。

表8 圧縮加熱及び引張冷却後の接着性試験結果

被着体	外観観察結果
アルミニウム板	3個とも破壊なし。
モルタル板	3個とも破壊なし。
ガラス板	3個とも破壊なし。

表9 高温状態及び湿潤状態でのガラス越しの人工光暴露後の接着性試験結果

被着体	外観観察結果
ガラス板	3個とも破壊なし。

表10 水浸せき後の定伸長下での接着性試験結果

被着体	外観観察結果
アルミニウム板	3個とも破壊なし。
モルタル板	3個とも破壊なし。
ガラス板	3個とも破壊なし。

表11 体積損失試験結果

体積損失 (%)			
1	2	3	平均
4.7	4.9	4.5	4.7

表12 耐久性試験結果

試験条件	外観観察結果
圧縮加熱温度 100℃ 変形率 30% (区分:10030)	3個とも異常なし。

5. 試験の期間、担当者及び場所

期 間 平成30年12月17日から
平成31年 1月29日まで

担 当 者 材料グループ
統括リーダー 藤 卷 敏 之
主幹 志 村 重 顕 (主担当)

場 所 中央試験所

以下余白

承認なく転載することを禁じます